

チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i> Nakai	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		バラ科
選定理由	県内では産地がごく限られる非常に稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	軟毛と柔毛のある多年草。茎は直立し、上部で分枝、白柔毛と長軟毛が多く、高さ1m弱。葉の下面は淡緑色、白柔毛と長軟毛を密生。小葉は3-7(-9)、長楕円形-倒卵形。托葉は葉状で扇形、鋸歯縁。花穂は頂生。花は7-8月、径10mm以上、5数性。花弁5、黄色、長楕円形、円頭。雄蕊(12-)15-28、宿存する。雌蕊2。果実は瘦果で花筒に包まれる。子房は下位、花筒は倒円錐形で果時には木質化して、上端に多数の反曲する鉤状の刺毛がある。	
生態的特徴	ブナ帯の石灰岩地などの低~中茎草地や林縁に生える。寒地系の植物で、丘陵帯にはない。	
分布状況	南千島、北海道から九州まで。朝鮮、中国、ウスリー。県内では県南西部に非常に稀。	
減少要因	シカの食害。歩道脇や林縁の草地管理の停滞に起因する低~中茎草地の高茎草地化、低木林化のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	シカの食害の抑制。歩道脇や林縁の草地管理の促進による低~中茎草地の維持。	
特記事項	キンミズヒキ <i>Agrimonia pilosa</i> Ledeb. の多毛型とよく誤認される。キンミズヒキは県内に普通で、粗毛が多く、托葉は半心形で、チョウセンキンミズヒキは白柔毛と長軟毛を密生し、托葉は扇形である。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 25. <i>Agrimonia</i> L. N. Naruhashi	

文責:高野裕行